

# Consolidated Business Results & Forecasts

## 2022年3月期 第2四半期決算説明会

2021年10月27日

株式会社SCREENホールディングス

内容：

- |               |                   |       |
|---------------|-------------------|-------|
| ・ 上期 連結決算の概要  | 専務取締役 (CFO)       | 近藤 洋一 |
| ・ 事業環境および業績予想 | 代表取締役 取締役社長 (CEO) | 廣江 敏朗 |

資料取り扱い上の注意

- ・ 本資料および口頭にて提供する業績予想は、当社が発表日現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- ・ 本資料に記載しております数字につきましては、単位未満切り捨てで処理しております。比率は四捨五入しております。
- ・ 本資料では、例えば、「FY2022/03」と示す場合、2021年4月1日～2022年3月31日の会計期間を表します。

# 上期 連結決算の概要

2021年10月27日

---

株式会社SCREENホールディングス  
専務取締役 最高財務責任者 (CFO)

近藤 洋一

## 上期 連結決算の概要

### ■ 上期 決算実績

- 全社：前年同期比増収増益、営業利益は3.7倍に
- SPE：営業利益率は17%台に改善
- SPE：2Q受注994億円、1Qに続き四半期最高
- 全社：受注残高は過去最高の2,065億円
- ネットキャッシュ528億円、CFは強めに安定推移

# FY2022/03 上期 連結業績 前年同期比

(億円)	FY2021/03						FY2022/03						7月発表予想比	
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	上期 (7月予想)	上期	前年同期比			
<b>売上高</b>	668	758	1,427	737	1,038	3,203	828	<b>1,043</b>	1,855	<b>1,872</b>	<b>444</b>	<b>31.2%</b>	<b>17</b>	<b>0.9%</b>
<b>営業利益</b> 営業利益率	18 2.8%	46 6.1%	64 4.5%	63 8.6%	116 11.3%	244 7.6%	86 10.5%	<b>153</b> <b>14.7%</b>	195 10.5%	<b>240</b> <b>12.9%</b>	<b>175</b>	<b>271.2%</b> <b>8.3pt</b>	<b>45</b>	<b>23.5%</b> <b>2.3pt</b>
<b>経常利益</b>	19	34	54	58	114	227	86	<b>151</b>	180	<b>237</b>	<b>183</b>	<b>338.4%</b>	<b>57</b>	<b>32.2%</b>
親会社株主に帰属する <b>当期純利益</b>	19	13	33	45	72	151	60	<b>115</b>	125	<b>176</b>	<b>142</b>	<b>422.0%</b>	<b>51</b>	<b>40.8%</b>

# FY2022/03 上期 連結業績 前年同期比

(億円)	FY2021/03						FY2022/03						前年同期比		7月発表予想比	
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	上期 (7月予想)	上期						
<b>売上高</b>	<b>668</b>	<b>758</b>	<b>1,427</b>	<b>737</b>	<b>1,038</b>	<b>3,203</b>	<b>828</b>	<b>1,043</b>	<b>1,855</b>	<b>1,872</b>	<b>444</b>	<b>31.2%</b>	<b>17</b>	<b>0.9%</b>		
SPE	526	547	1,074	545	735	2,355	597	816	1,415	1,414	339	31.6%	△1	△0.0%		
GA	79	90	169	93	111	374	96	112	190	209	39	23.6%	19	10.2%		
FT	36	89	126	71	149	347	102	72	175	175	49	39.1%	1	0.5%		
PE	23	23	47	22	34	104	23	34	60	58	10	22.6%	△2	△2.8%		
その他および調整	2	7	9	4	7	22	8	5	15	14	4	51.1%	△1	△4.2%		
<b>営業利益</b>	<b>18</b>	<b>46</b>	<b>64</b>	<b>63</b>	<b>116</b>	<b>244</b>	<b>86</b>	<b>153</b>	<b>195</b>	<b>240</b>	<b>175</b>	<b>271.2%</b>	<b>45</b>	<b>23.5%</b>		
営業利益率	<b>2.8%</b>	<b>6.1%</b>	<b>4.5%</b>	<b>8.6%</b>	<b>11.3%</b>	<b>7.6%</b>	<b>10.5%</b>	<b>14.7%</b>	<b>10.5%</b>	<b>12.9%</b>	<b>8.3pt</b>	<b>23.5%</b>	<b>2.3pt</b>			
SPE	42	44	87	64	107	259	88	154	215*	243	155	178.0%	28	-		
GA	△3	1	△2	1	5	5	2	4	0*	6	8	-	6	-		
FT	△15	4	△10	1	13	4	2	△0	0*	1	12	-	1	-		
PE	1	1	2	0	4	7	2	7	5*	9	6	248.3%	4	-		
その他および調整	△6	△6	△12	△5	△14	△32	△8	△10	△25*	△19	△7	-	6	-		
<b>経常利益</b>	<b>19</b>	<b>34</b>	<b>54</b>	<b>58</b>	<b>114</b>	<b>227</b>	<b>86</b>	<b>151</b>	<b>180</b>	<b>237</b>	<b>183</b>	<b>338.4%</b>	<b>57</b>	<b>32.2%</b>		
親会社株主に帰属する 当期純利益	19	13	33	45	72	151	60	115	125	176	142	422.0%	51	40.8%		

\* セグメント別営業利益予想：5億円刻みの「約」表記

■ SPE：半導体製造装置事業   
 ■ GA：グラフィックアーツ機器事業   
 ■ FT：ディスプレイ製造装置および成膜装置事業   
 ■ PE：プリント基板関連機器事業

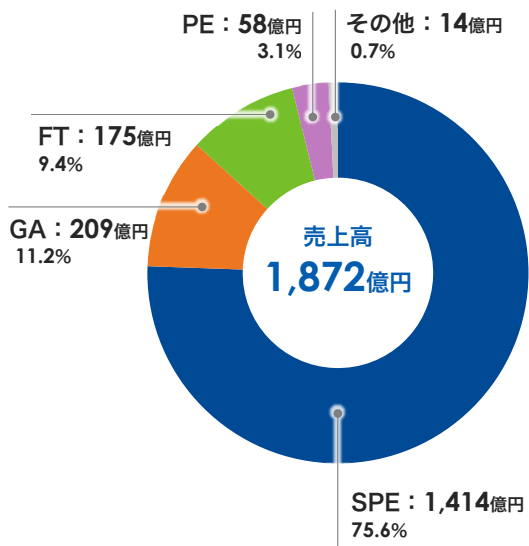
# FY2022/03 上期 連結業績 セグメント別

■ 上期、前年同期比 (YoY)    □ 2Q、1Q比 (QoQ)

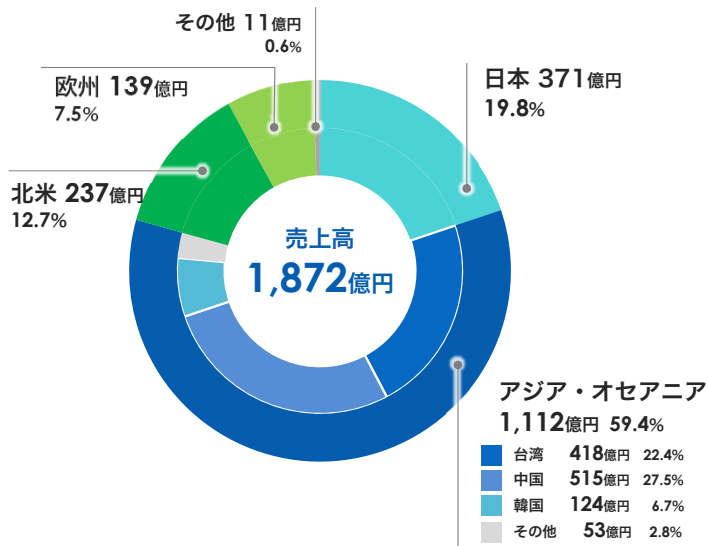
		FY2021/03			FY2022/03			
		1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	
<b>SPE</b>	メモリー向け売上大幅に増加、ファウンドリーやロジック向けも堅調 地域別では台湾や北米向け売上が増加	売上	526	547	1,074	597	<b>816</b>	<b>1,414</b>
	ファウンドリー、DRAM、その他が増加	営業利益 営業利益率	42 8.1%	44 8.2%	87 8.1%	88 14.9%	<b>154</b> <b>18.9%</b>	<b>243</b> <b>17.2%</b>
<b>GA</b>	顧客の装置稼働状況、設備投資意欲の回復を受け、装置やPS ともに売上増加	売上	79	90	169	96	<b>112</b>	<b>209</b>
	リカーリングビジネスは引き続き堅調	営業利益 営業利益率	△3 △5.0%	1 1.9%	△2 △1.3%	2 2.7%	<b>4</b> <b>3.6%</b>	<b>6</b> <b>3.2%</b>
<b>FT</b>	OLED用中小型パネル用製造装置で売上・利益増加	売上	36	89	126	102	<b>72</b>	<b>175</b>
	売上減は想定内	営業利益 営業利益率	△15 △41.4%	4 5.2%	△10 △8.4%	2 2.2%	△0 △0.9%	1 0.9%
<b>PE</b>	直接描画装置の売上が増加、利益は大幅増加	売上	23	23	47	23	<b>34</b>	<b>58</b>
	5G関連は引き続き堅調。営業利益率は初の20%台に	営業利益 営業利益率	1 5.2%	1 6.2%	2 5.7%	2 9.0%	<b>7</b> <b>21.0%</b>	<b>9</b> <b>16.2%</b>

# FY2022/03 上期 連結業績

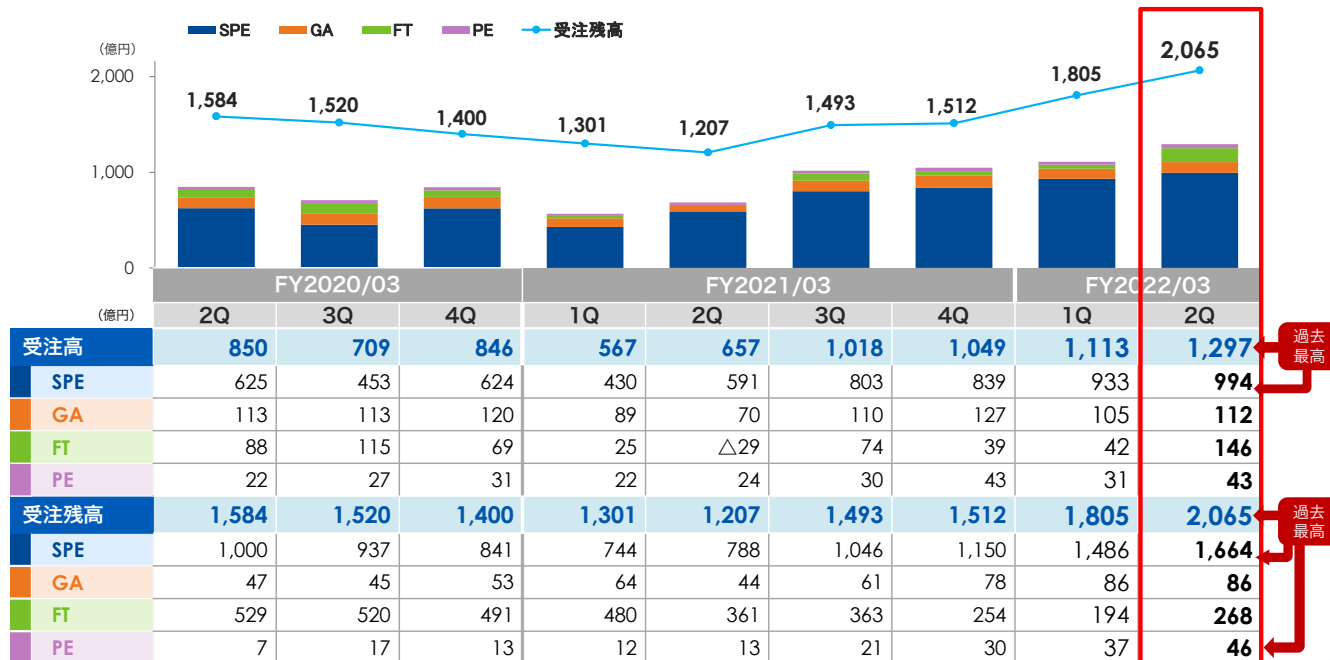
## セグメント別売上高



## 地域別売上高



## 連結受注高／受注残高の四半期推移

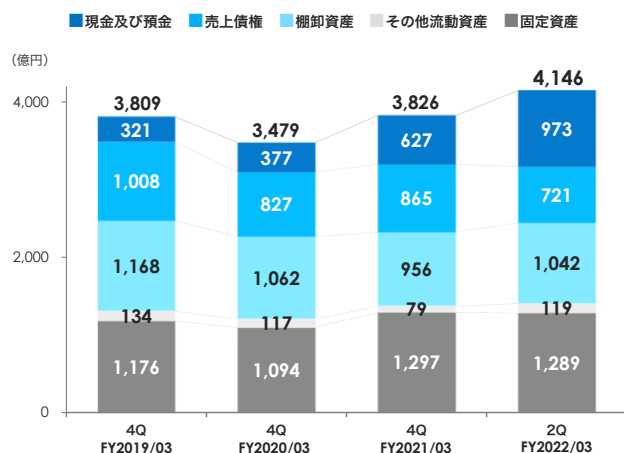


- 全社の2Q受注高は、4四半期連続の1,000億円超えの高水準となりました  
SPEの2Q受注高は、四半期として過去最高の994億円となりました
- 全社の2Q受注残高は、過去最高の2,065億円となりました

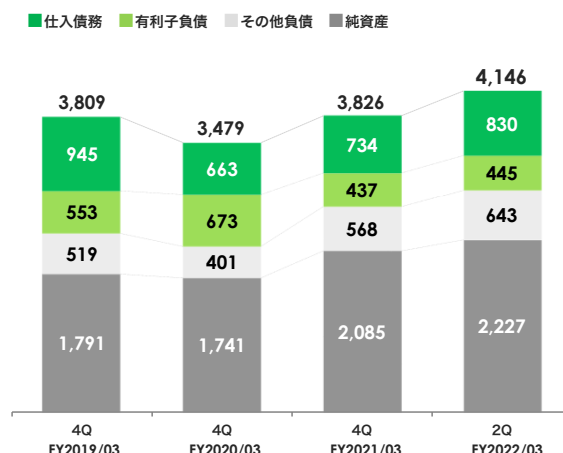


## 財務状況：連結貸借対照表

### 資産



### 負債および純資産



■ 自己資本比率は53.7% (FY2022/03 2Q)

■ 528億円のネットキャッシュ

●総資産：4,146億円となりました

#### ●資産の部

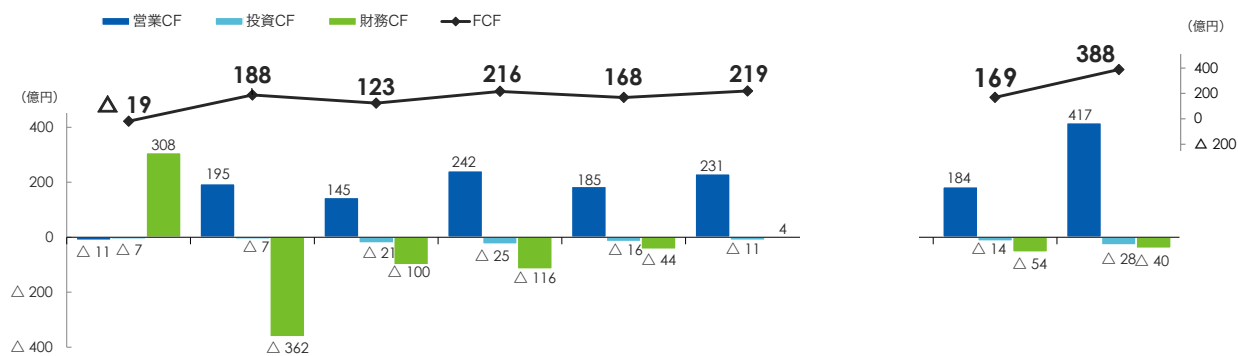
- ・売上債権が減少した一方、現金及び預金や棚卸資産が増加したことなどから、前年度末に比べ320億円増加し、4,146億円となりました

#### ●負債および純資産の部

- ・負債は、仕入債務や契約負債が増加したことなどにより、前年度末に比べ、178億円増加し、1,918億円となりました。
- ・純資産は、配当金の支払いの一方で、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上などにより、前年度末に比べ142億円増加し、2,227億円となりました。

●以上の結果、自己資本比率は、53.7%でした

# 財務状況：連結キャッシュ・フロー



(億円)	FY2021/03				FY2022/03	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
営業CF	△11	195	145	242	185	<b>231</b>
投資CF	△7	△7	△21	△25	△16	△11
FCF	△19	188	123	216	168	<b>219</b>
財務CF	308	△362	△100	△116	△44	4

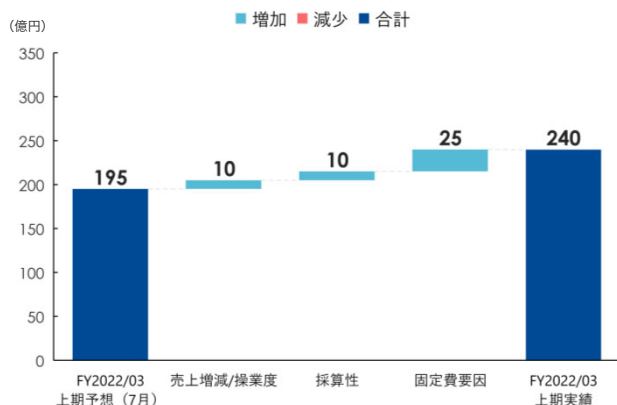
FY2021/03	FY2022/03
上期	上期
<b>184</b>	<b>417</b>
△14	△28
<b>169</b>	<b>388</b>
△54	△40

※ FCF：フリーキャッシュ・フロー

■ 営業CFは営業利益を超える水準

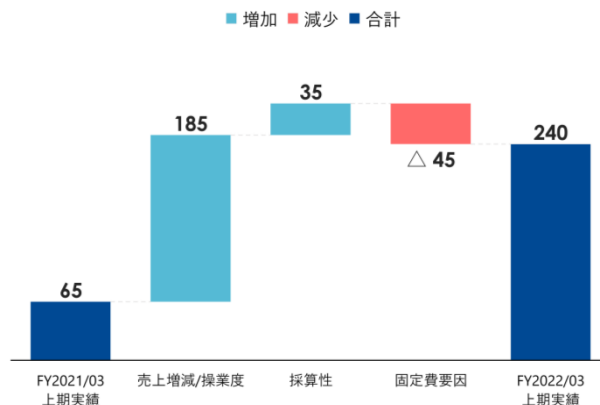
## 営業利益増減分析

### FY2022/03 上期予想（7月） vs 上期実績



>>主にSPEの売上増、採算性改善、固定費抑制により、営業利益は増加

### FY2021/03 上期実績 vs FY2022/03 上期実績



※利益要因は、5億円刻みの「約」表記

>>主にSPEの売上増、SPEとFTの採算性改善。固定費の増加は、主にSPEの増産体制の影響

## FY2022/03 上期予想（7月） vs 上期実績

### ●売上増減/操業度：+10億円程度

>>ほとんどがSPEです

### ●採算性：+10億円程度

>>ほとんどがSPEです

### ●固定費要因：+25億円程度

>>ほとんどがSPEです

## FY2021/03 上期実績 vs FY2022/03 上期実績

### ●売上増減/操業度：+185億円程度

>>ほとんどがSPEです

### ●採算性：+35億円程度

>>ほとんどがSPE、次いでFTです

### ●固定費要因：△45億円程度

>>マイナス要因のほとんどが、SPEの増産体制の影響です

# 事業環境および業績予想

2021年10月27日

---

株式会社SCREENホールディングス  
代表取締役 取締役社長 最高経営責任者 (CEO)

**廣江 敏朗**

## 事業環境および業績予想

### ■ 事業環境

- 全社：全般的に良好。2Qの受注高1,297億円、受注残高2,065億円、いずれも過去最高
- SPE：2Q受注高994億円、1Qに続き四半期最高を更新  
ファウンドリー、ロジックを中心に増加、成熟ノードやパワー半導体向け投資も活況
- GA、FT、PE：受注は堅調

### ■ 通期業績予想

- 全社およびSPE：7月予想からさらに上方修正、売上、営業利益ともに過去最高
- 配当：7月予想からさらに増配、過去最高を予定
- SPE：上期の旺盛な受注状況は下期も継続を見込む。下期のさらなる増産に向け、部材不足による納期対応を管理、修正計画の達成を目指す

## 市場動向および見通し

- **WFE**：DX化進展継続と世界的な半導体不足に伴いWFE市場はかつてない勢いで成長
  - ・半導体生産は各国で国策として認知され、投資計画が具体化
  - ・CY2021は前年比+40%以上（\$90bn以上）の大きな成長を予想

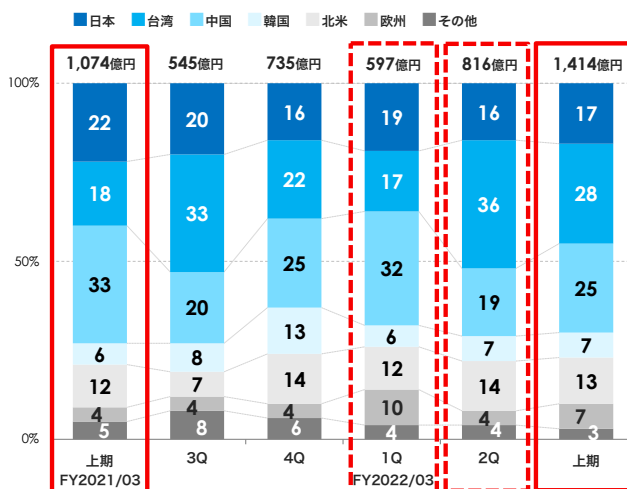
### ● アプリケーション別の動向：

ファウンドリー	アジア地域での生産増強のみならず、他地域での先端・成熟ノードの生産計画も確実に進行
ロジック	米国だけでなく欧州での先端ノード投資継続
メモリー	DRAMは足元で価格下落発生するも設備投資は活発。NANDは積層化への投資継続
画像素子	日本国内の投資は計画どおり。中国企業の投資も
パワー	欧州、日本を中心に、中国、北米も投資意欲
中国市場	投資は堅調。成熟ノードファウンドリー、メモリー、パワーなどバラエティに富む
その他	成熟ノード半導体への投資も活発化

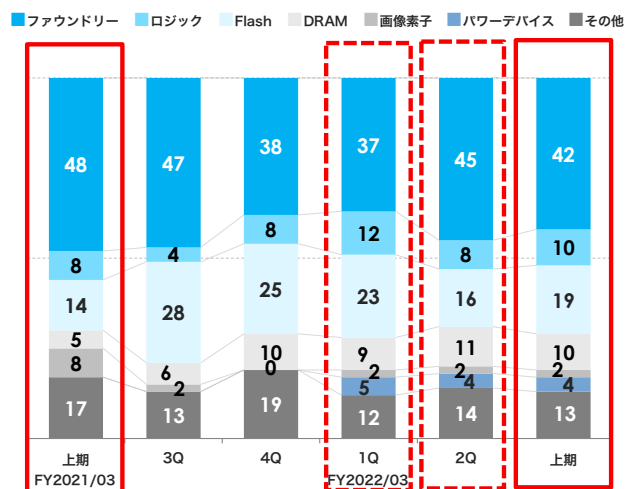
▶ 最先端ノードへのパイプラインを重視、POR確保を目指す

▶ 量産からレガシーノードまで、多様なソリューションの提供 → 供給責任を果たすべく、万全な開発・生産体制で臨む

■ 連結・地域別 - 仕向地ベース



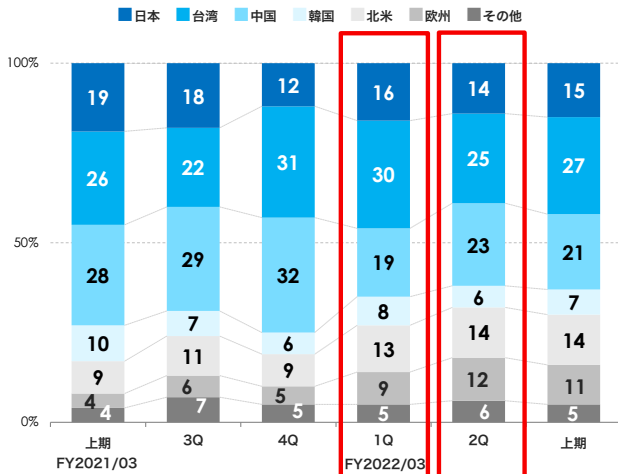
■ 単独・アプリケーション (デバイス) 別



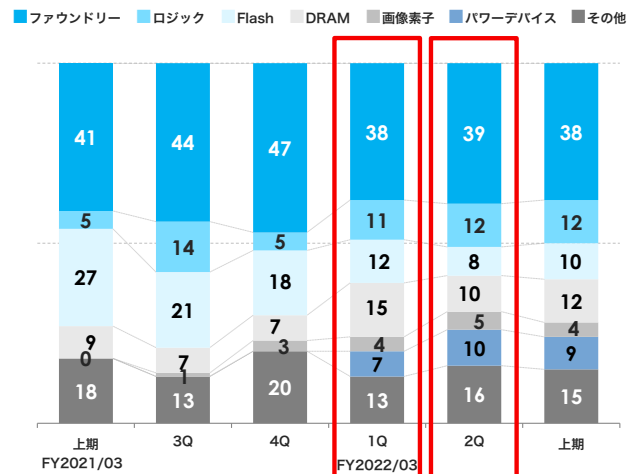
- 地域別：上期 (YoY)、台湾、欧州や北米向けを中心に売上増加。2Q (QoQ)、台湾、北米が増加。
- アプリケーション別：上期 (YoY) メモリー向け売上が大幅増加。ファウンドリー向けやロジック向けも堅調に推移。2Q (QoQ)、ファウンドリー、DRAM、その他が増加

# 単独・受注高比率

## 地域別 - 仕向地ベース



## アプリケーション (デバイス) 別 - 四半期推移



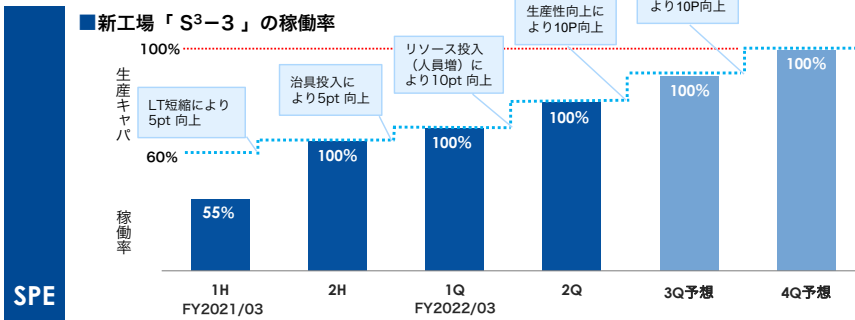
■ 地域別：2Q (QoQ)、中国、欧州、北米が伸長

■ アプリケーション別：2Q (QoQ)、ファウンドリー、ロジックが受注を牽引、パワーデバイスや成熟ノードの受注も増加

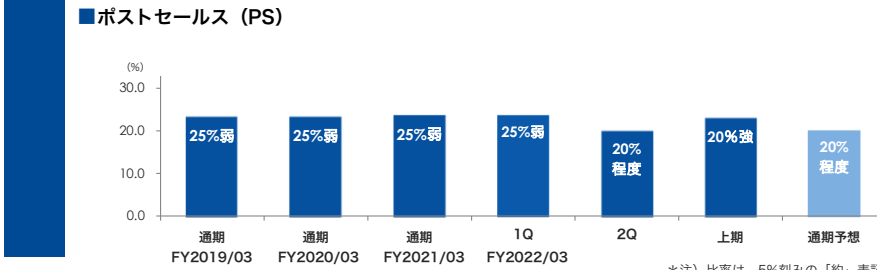
- 2Q受注高 (連結) は、994億円となりました
- 3Q受注高ガイダンスは、2Qより若干下回る見込みです



## その他指標

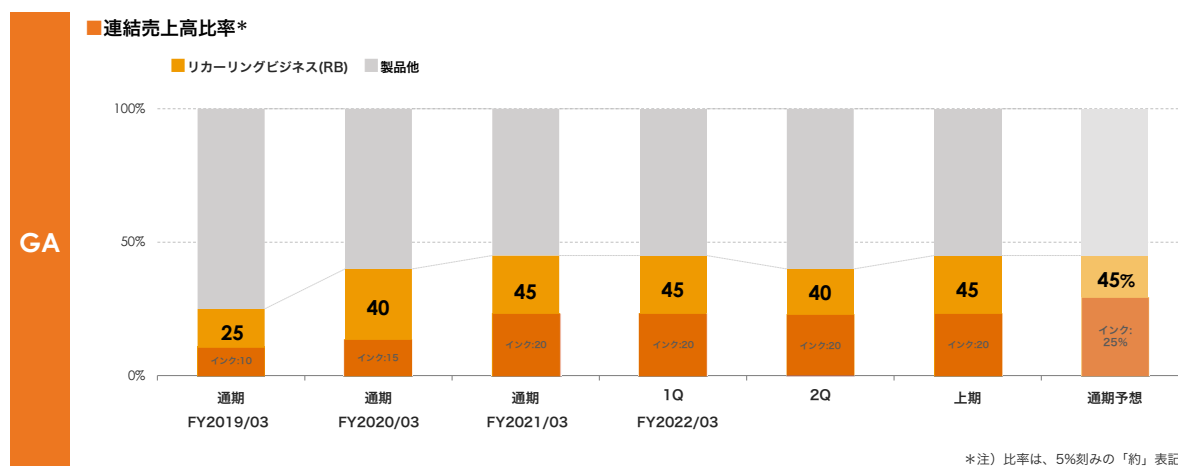


- 3Q：生産工程改善により生産キャバに対し90%の生産能力へ。さらなる改善で期末には100%に到達予定
- FTの設備は2Qまでに一部転用完了。さらに転用を進める。
- 来期以降のさらなる増産を見込み、S<sup>3</sup>-3以外の生産設備への投資を検討



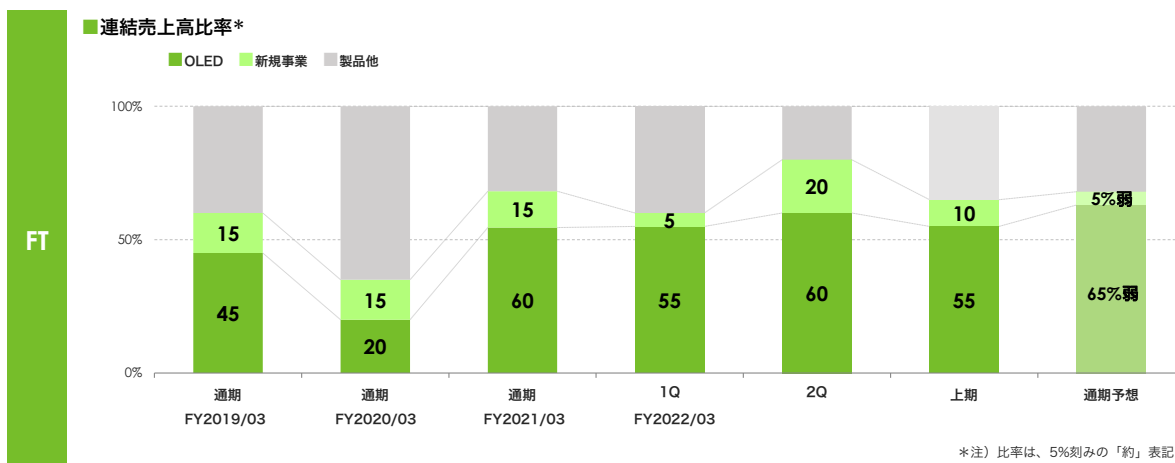
- QoQでは、売上ボリュームは上昇するも、2Qの売上アップより比率は低下
- 下期も装置本体の売上が大きく、PSは2Q程度の比率を想定。

## リカーリングビジネスは安定推移



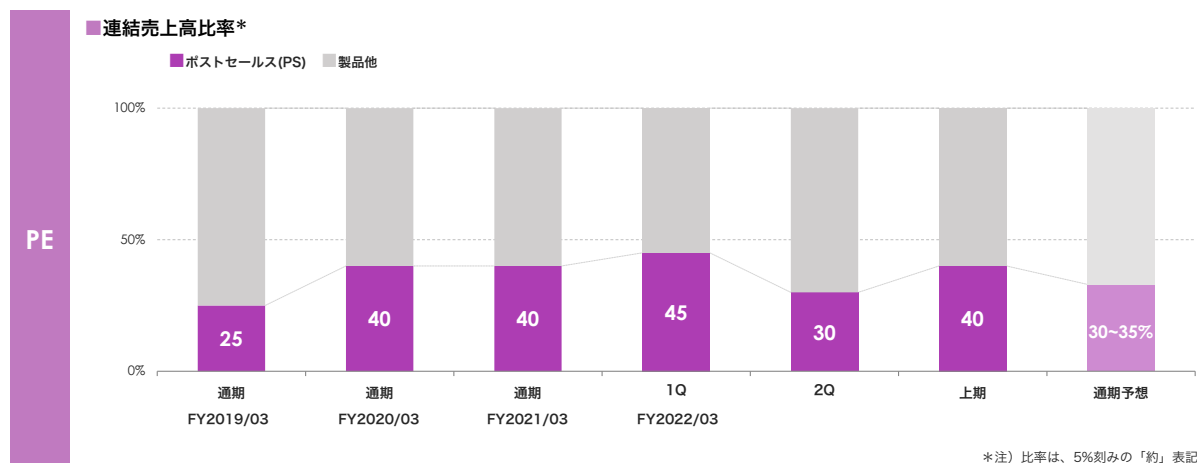
- 2Q、インクを中心とするリカーリングビジネス (RB) は堅調
- 下期、部材不足の影響を受け、上期に比べ売上減少を見込む (特にCTP)
- 今後もコロナ禍影響に注視しつつも、北米、欧州でのPOD需要に注力

## 2Q、LCDの大型TV用追加投資案件を受注



- 2Q、連結受注高は146億円（LCD中心）、3Qは中小型向けOLED中心に2桁億円後半を見込む
- 通期、売上は中小型向けOLEDが中心と予想

## ■ ポストセールスは安定推移



- ポストセールスは、売上ボリュームは安定推移するも、下期は装置売上増加を想定、比率は減少する見込み
- 期末に向け、5G（モバイル、サーバー向け）、パッケージ向け需要が引き続き旺盛
- 今期は新製品（Ledial Twin）の販売開始

# FY2022/03 業績予想 (2021年10月27日時点)

※   は過去最高

(億円)	FY2021/03	FY2022/03					
	通期実績	上期		下期		通期	
		7月発表 予想	10月発表 実績	7月発表 予想	10月発表 予想	7月発表 予想	10月発表 予想
<b>売上高</b>	<b>3,203</b>	<b>1,855</b>	<b>1,872</b>	<b>2,060</b>	<b>2,218</b>	<b>3,915</b>	<b>4,090</b>
SPE	2,355	1,415	1,414	1,640	1,786	3,055	3,200
GA	374	190	209	190	191	380	400
FT	347	175	175	155	154	330	330
PE	104	60	58	60	72	120	130
その他および調整	22	15	14	15	16	30	30
<b>営業利益</b>	<b>244</b>	<b>195</b>	<b>240</b>	<b>250</b>	<b>304</b>	<b>445</b>	<b>545</b>
<b>営業利益率</b>	<b>7.6%</b>	<b>10.5%</b>	<b>12.9%</b>	<b>12.1%</b>	<b>13.7%</b>	<b>11.4%</b>	<b>13.3%</b>
SPE	259	215*	243	270*	335*	485*	580*
GA	5	0*	6	5*	5*	5*	10*
FT	4	0*	1	0*	△0*	0*	0*
PE	7	5*	9	5*	10*	10*	20*
その他および調整	△32	△25*	△19	△30*	△45*	△55*	△65*
<b>経常利益</b>	<b>227</b>	<b>180</b>	<b>237</b>	<b>230</b>	<b>277</b>	<b>410</b>	<b>515</b>
親会社株主に帰属する 当期純利益	151	125	176	155	184	280	360

注) FY2022/03 (通期) 想定為替レート>> 1USD=¥110、1EUR=¥130  
 想定為替感応度 (通期営業利益ベース) >> 対USD: ¥1.1億、対EUR: ¥0.3億

\* セグメント別営業利益予想: 5億円刻みの「約」表記

- 全社の通期・業績予想を上方修正し、売上高、営業利益、営業利益率、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益はすべて過去最高になる見込みです
- SPEの通期・業績予想も上方修正し、売上高、営業利益、営業利益率はすべて過去最高になる見込みです

## FY2022/03 業績予想

その他

(億円)	上期実績	下期	通期
減価償却費	47	53	100
設備投資額	41	89	130
研究開発費	105	135	240

### >>配当予想について

- ・純利益の大幅増加を踏まえ231円に増配
- ・中期経営計画の連結総還元性向30%以上方針に沿って、株主の皆様へ還元

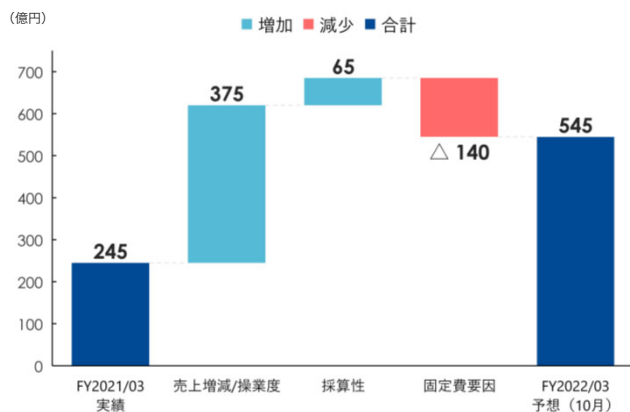
(円)	通期
1株当たり配当予想	231

●今期の減価償却、設備投資、研究開発費は7月予想から変更はありません

●期末配当につきましては、親会社株主に帰属する当期純利益を上方修正したことに伴い、7月予想（180円）からさらに引き上げ、過去最高になる見込みです

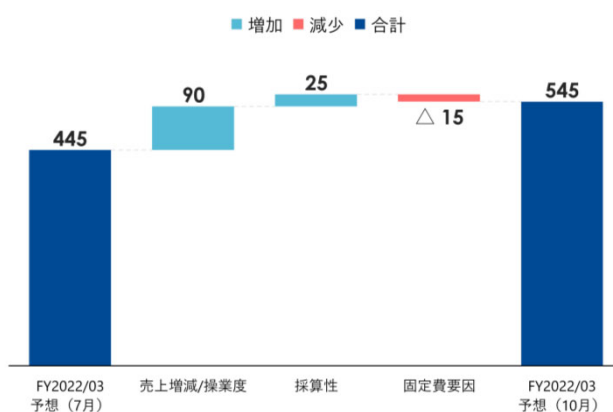
## 営業利益増減分析

### FY2021/03実績 vs FY2022/03予想 (10月)



>>SPEの売上増、採算性改善。固定費の増加は、主にSPEの増産体制の影響

### FY2022/03 7月予想 vs 10月予想



※利益要因は、5億円刻みの「約」表記

>>主にSPEの売上増、採算性改善により利益増。固定費の増加は、全社的に及ぶ

## FY2021/03実績 vs FY2022/03予想 (10月)

### ●売上増減/操業度：+375億円程度

>>ほとんどがSPEです

### ●採算性：+65億円程度

>>ほとんどがSPEです

### ●固定費要因：△140億円程度

>>マイナス要因のほとんどがSPEです

## FY2022/03 7月予想 vs 10月予想

### ●売上増減/操業度：+90億円程度

>>ほとんどがSPEです

### ●採算性：+25億円程度

>>ほとんどがSPEです

### ●固定費要因：△15億円程度

>>マイナス要因は全社（各事業）に及びます

## 最近のグループニュース (Webサイトより抜粋：2021年7月29日～2021年10月27日)

HD

- 彦根工業高等学校へ「マイスター・ハイスクールCEO」を派遣 ～地域の次世代職業人材育成に貢献～
- SCREEN本社に“京都パルテ”を設置 ～障がい者雇用を促進～
- SCREENと京都女子大学、データサイエンスをはじめとした 包括的な連携・協力に関する協定を締結
- SCREENとPHCNA、米国での高速3D細胞イメージングシステムの販売契約を締結

SPE

- 「半導体・オブ・ザ・イヤー2021」で「優秀賞」を受賞  
～コストパフォーマンスに優れたスピンプロセッサ「SP-2100」が高評価を獲得～

FT

- 経済産業省の「ゼロエミ・チャレンジ企業」に選定

PE

- プリント基板向け直接描画装置の高解像性モデルを開発

AS

- SCREEN AS、AI・人工知能開発関連のベンチャー企業 Laboro.AIと資本業務提携



## ESG関連の取り組み

### E（環境）

- FT、経済産業省の「ゼロエミ・チャレンジ企業」に選定  
→燃料電池の多用途活用の実現に関する技術開発が評価

### S（社会）

- コロナワクチン職域接種（本社、彦根）の継続

### G（ガバナンス）

- ESGをベースとしたSR（エンゲージメント）活動を強化中  
→面談の対話ツールには、アニュアルレポート2021年度版（9月発行）を使用  
→継続的にSR/ESG面談を重視。国内外の議決権行使・ESG担当者との対話を実施中
- MSCI ESG Ratingスコアが「BBB」に改善（9月23日、BBより）



## Appendix>>

### ■ アニュアルレポート2021年版発行

#### 改訂ポイント

##### 1. IR・SR面談の対話ツールを目指した

- 社長インタビューの内容をさらに充実（投資家の皆さまからのFAQをベースに考案）
- 価値創造プロセスの改訂（構成要素を別ページで詳細解説）
- マテリアリティの特定と詳細解説
- 投下資本の開示（価値創造プロセスの構成要素）
- コア技術と製品の結び付きを解説
- 事業を通じた価値創造（SPE、GA、FT、PE、新規事業）につき、市場状況、製品紹介など、大幅改定。特に主軸のSPE事業については、SWOT、バリューチェーン、中計で導入したROICの導入後状況などについて問うインタビュー記事も掲載

##### 2. 非財務情報の主な改訂（ESG情報の詳細開示・整備）

- 中期経営計画の社会的価値に関する計画「Sustainable Value 2023」の2023年目標と進捗（2021/03期の実績）
- E>> 気候変動への取り組み（Scope 1～3まで）の詳細解説、SBT達成に向けたマイルストーンなど
- S>> ダイバーシティへの取り組みなど、人事制度改定について解説
- G>> ガバナンス体制強化についての方針（会長インタビュー）、体制図・委員会の詳細解説、取締役・監査役のスキルマトリックス（w/判断基準）。初の女性取締役（社外）へのインタビュー記事紹介



## Appendix&gt;&gt;

## ■ 「半導体・オブ・ザ・イヤー2021」で「優秀賞」を受賞

～コストパフォーマンスに優れたスピンプロセッサ「SP-2100」が高評価を獲得～

- ウエハー搬送機構の見直しや処理タスクの分離などにより、従来の8インチ対応枚葉式洗浄装置と比較して約40%のコンパクト化を実現
- アプリケーションに合わせた柔軟な装置構成が可能。  
納入後の処理ウエハーサイズの変更およびそれに伴う改造も容易

### ■ 半導体・オブ・ザ・イヤー

「電子デバイス産業新聞」（株式会社産業タイムズ社）が毎年開催し、今年で27回目。開発の斬新性、量産体制の構築、社会に与えたインパクト、将来性などを基準に、同新聞の記者の投票によって受賞製品・技術が選定される。



>>高度化や多様化、省エネルギー化を求める顧客ニーズに幅広く対応  
>>技術革新を絶え間なく推進することで、半導体業界のさらなる発展に貢献

### ■プリント基板向け直接描画装置の高解像性モデルを開発

- プリント基板向け直接描画装置「Lediaシリーズ」の最新機種、「Ledia 7F」を開発。HDI（高密度多層）基板やパッケージ基板などの高精細なパターン形成に対応（2021年10月から販売を開始）
- 実績と先進性を備えた従来機種を進化
  - ・ 描画位置精度をさらに向上させ、露光部の機構を刷新。露光面のスポットサイズを30%小径化し、ハイエンドパッケージ基板のソルダーマスク露光に対応
  - ・ データ送りピッチの高分解能化により、斜めラインや曲線のより滑らかな描画が可能。メタルマスクや電子部品といった高アスペクト比のパターン形成用途にも対応、汎用性が拡大



>>5G関連やIoTインフラを中心に拡大が続くHDI・パッケージ基板市場へのビジネス展開を加速  
>>技術革新を絶え間なく推進し、プリント基板業界のさらなる発展に貢献

## ■ 経済産業省の「ゼロエミ・チャレンジ企業」に選定～燃料電池の多用途活用の実現に関する技術開発～

- SCREENファインテックソリューションズは、NEDOが実施している「燃料電池等利用の飛躍的拡大に向けた共通課題解決型産学官連携研究開発事業」のプロジェクト「燃料電池の多用途活用実現技術開発」の一貫として、経済産業省の「ゼロエミ・チャレンジ企業」に選定。先進的な活動が評価された。



※ ゼロエミ・チャレンジ企業：経済産業省が脱炭素社会の実現に向けたイノベーションに果敢に挑戦する企業を選定したもの。今回は昨年に続く第2弾

## ■ SCREEN AS、AI・人工知能開発関連のベンチャー企業 と資本業務提携

- 2021年7月30日、SCREENアドバンスドシステムソリューションズ（以下、SCREEN AS）は、オーダーメイドのAIソリューション『カスタムAI』の開発・提供を行う株式会社Laboro.AI（以下、Laboro.AI）への出資、資本業務提携契約を締結

## Appendix&gt;&gt; セグメント別業績

SPE

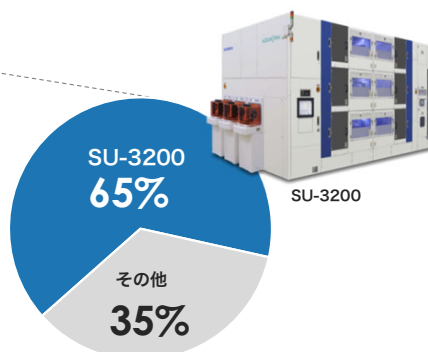
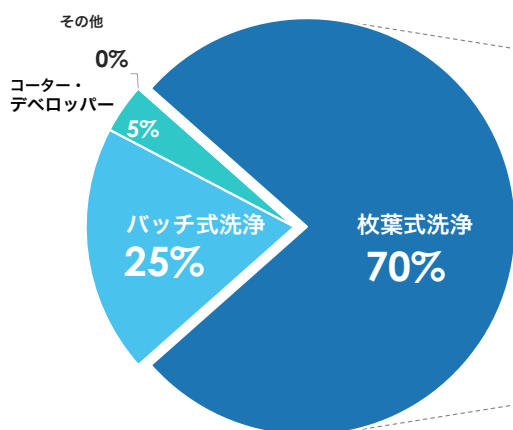
## 前年同期比

	FY2021/03	FY2022/03	増減	
	上期	上期		
(億円)				
売上高	1,074	<b>1,414</b>	<b>339</b>	<b>31.6%</b>
営業利益 営業利益率	87 8.1%	<b>243</b> 17.2%	<b>155</b>	<b>178.0%</b> 9.0pt

## 前四半期比

	FY2022/03	FY2022/03	増減	
	1Q	2Q		
(億円)				
売上高	597	<b>816</b>	<b>219</b>	<b>36.7%</b>
営業利益 営業利益率	88 14.9%	<b>154</b> 18.9%	<b>65</b>	<b>73.4%</b> 4.0pt

洗淨装置 製品別売上高比率 - FY2022/03 上期



(%)	FY2019/03 通期	FY2020/03 通期	FY2021/03 通期	FY2022/03 1Q	2Q	上期
枚葉	65	65	70	65	<b>70</b>	<b>70</b>
バッチ	20	25	25	30	<b>25</b>	<b>25</b>
コーデベ	10	5	5	5	<b>5</b>	<b>5</b>
その他	5	5	0	0	<b>0</b>	<b>0</b>

※上記比率は、5%刻みの「約」表記

## Appendix>> セグメント別業績

GA

### 前年同期比

	FY2021/03	FY2022/03	増減	
	上期	上期		
(億円)				
売上高	169	<b>209</b>	<b>39</b>	<b>23.6%</b>
営業利益 営業利益率	△2 △1.3%	<b>6</b> <b>3.2%</b>	<b>8</b>	<b>-</b> <b>4.5pt</b>

### 前四半期比

	FY2022/03	FY2022/03	増減	
	1Q	2Q		
(億円)				
売上高	96	<b>112</b>	<b>16</b>	<b>17.0%</b>
営業利益 営業利益率	2 2.7%	<b>4</b> <b>3.6%</b>	<b>1</b>	<b>55.0%</b> <b>0.9pt</b>



## Appendix>> セグメント別業績

FT

### 前年同期比

	FY2021/03	FY2022/03	増減	
	上期	上期		
(億円)				
売上高	126	175	49	39.1%
営業利益 営業利益率	△10 △8.4%	1 0.9%	12	- 9.3pt

### 前四半期比

	FY2022/03	FY2022/03	増減	
	1Q	2Q		
(億円)				
売上高	102	72	△29	△29.1%
営業利益 営業利益率	2 2.2%	△0 △0.9%	△2	- △3.2pt

## Appendix>> セグメント別業績

PE

### 前年同期比

	FY2021/03	FY2022/03	増減	
	上期	上期		
(億円)				
売上高	47	<b>58</b>	<b>10</b>	<b>22.6%</b>
営業利益 営業利益率	2 5.7%	<b>9</b> 16.2%	<b>6</b>	<b>248.3%</b> 10.5pt

### 前四半期比

	FY2022/03	FY2022/03	増減	
	1Q	2Q		
(億円)				
売上高	23	<b>34</b>	<b>11</b>	<b>48.6%</b>
営業利益 営業利益率	2 9.0%	<b>7</b> 21.0%	<b>5</b>	<b>247.0%</b> 12.0pt

## Appendix>> 主要数値の変遷

(億円)	FY2017/03	FY2018/03	FY2019/03	FY2020/03	FY2021/03	FY2022/03 予想
売上高	3,002	3,393	3,642	3,232	3,203	<b>4,090</b>
営業利益	337	427	296	125	244	<b>545</b>
営業利益率 (%)	11.2	12.6	8.1	3.9	7.6	<b>13.3</b>
総資産	3,006	3,658	3,809	3,479	3,826	-
自己資本	1,428	1,708	1,791	1,739	2,083	-
自己資本比率 (%)	47.5	46.7	47.0	50.0	54.5	-
ROE (%)	18.4	18.2	10.3	2.8	7.9	-
減価償却費	53	57	68	88	96	<b>100</b>
設備投資額	82	144	240	79	78	<b>130</b>
研究開発費	177	208	228	215	215	<b>240</b>
EPS (円)	511.96	608.62	387.10	107.37	325.21	<b>772.96</b>
期末配当 (円)	87	110	97	30	90	<b>231</b>



**Innovation for a Sustainable World**